

DRUG

INFORMATION

2001 No. 4

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室（内線2834）

平成13年3月1日発行

目 次

1. 院外処方医薬品について

ー平成 13 年 3 月 1 日新規登録薬品ー	1
ー平成 13 年 3 月 1 日規格追加薬品ー	2
ー平成 13 年 3 月 16 日新規登録薬品ー	3

院外処方医薬品について

平成 13 年 3 月 1 日新規登録薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
モービックカプセル(メロキシカム)	5mg, 10mg / 錠	非ステロイド性消炎・鎮痛剤	第一

＊メロキシカム Meloxicam

【商】モービック Mobic 第一

内用：カプセル剤（劇） 1 個中 5mg, 10mg

【禁】消化性潰瘍のある患者，重篤な血液の異常がある患者，重篤な肝障害のある患者，重篤な腎障害のある患者，重篤な心機能不全のある患者，重篤な高血圧症のある患者，本剤の成分・サリチル酸塩（アスピリン等）又は他の非ステロイド性消炎鎮痛剤に対して過敏症の既往歴のある患者，アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発）又はその既往歴のある患者，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【効】下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛：慢性関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群

【用】1 日 1 回 10mg を食後に投与する。1 日最高用量は 15mg とする。

【副】消化性潰瘍，吐血，下血，大腸炎，喘息，急性腎不全，無顆粒球症，血小板減少，Stevens-Johnson 症候群，Lyell 症候群，水疱，多形紅斑，アナフィラキシー反応，アナフィラキシー様反応，血管浮腫，肝炎，重篤な肝機能障害，ショック，再生不良性貧血，骨髓機能抑制，ネフローゼ症候群，血圧上昇，低血圧，動悸，腹痛，便潜血，胃潰瘍，嘔吐，悪心・嘔気，食欲不振，消化不良，口内乾燥，口内炎，口角炎，おくび，下痢，鼓腸放屁，食道炎，腹部膨満感，便秘，胃炎，頭痛，味覚障害，知覚異常，眠気，眩暈，錯乱，失見当識，発疹，皮膚瘙痒，蕁麻疹，接触性皮膚炎，光線過敏性反応，眼異物感，眼球強膜充血，耳鳴，結膜炎，視覚障害，霧視，AST・ALT・LDH・Al-P 上昇，総ビリルビン値・ウロビリノーゲン上昇，BUN・クレアチニン・尿酸値上昇，総蛋白・アルブミン低下，尿蛋白，尿糖，尿量減少，白血球増加，赤血球・白血球・ヘモグロビン・ヘマトクリット値・リ

ンパ球減少，好中球・好酸球・好塩基球・単球増加，貧血，浮腫，倦怠感，気分不快，尿沈渣増加，尿潜血，血清鉄減少，カリウム上昇，咳嗽，腋窩・乳房の痛み，悪寒，潮紅・ほてり，発熱，下肢脱力

【妊】不可

【授】回避，やむを得ない場合は授乳中止

【未・新・乳・幼・小】未確立

平成 13 年 3 月 1 日規格追加薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
オメプラール錠(オメプラゾール)	10mg / 錠	プロトンポンプ阻害剤	アストラゼネカ
リピートール錠(アトルバスタチンカルシウム水和物)	5mg / 錠	HMG-CoA 還元酵素阻害剤	山之内

＊オメプラゾール Omeprazole

【商】オメプラール Omepral アストラゼネカ
内用：錠剤 1 錠中 10mg

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger-Ellison 症候群

【用】○胃潰瘍，吻合部潰瘍，十二指腸潰瘍，Zollinger-Ellison 症候群：1 日 1 回 20mg を投与する。胃潰瘍，吻合部潰瘍では 8 週間まで，十二指腸潰瘍では 6 週間までの投与とする。○逆流性食道炎：1 日 1 回 20mg を投与する。8 週間までの投与とする。再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法においては，1 日 1 回 10～20mg を投与する。

【副】ショック，アナフィラキシー様症状，血管浮腫，気管支痙攣，無顆粒球症，汎血球減少症，溶血性貧血，急性肝不全，黄疸，Lyell 症候群，Stevens-Johnson 症候群，視力障害，間質性腎炎，低ナトリウム血症，間質性肺炎，多形紅斑，光線過敏症，発疹，蕁麻疹，痒痒感，下痢・軟便，便秘，悪心，嘔吐，鼓腸放屁，腹部膨満感，カンジダ症，口渇，腹痛，口内炎，AST・ALT・Al-P・γ-GTP・LDH 上昇，白血球減少，血小板減少，貧血，めまい，振戦，可逆性錯乱状態，傾眠，不眠，異常感覚，頭痛，眠気，しびれ感，頻尿，味覚異常，心悸亢進，月経異常，筋肉痛，発汗，かすみ目，発熱，浮腫，女性化乳房，脱毛，倦怠感，関節痛，BUN・クレアチニン・尿酸・トリグリセライド・血清カリウム・総コレステロール上昇

【妊】有益のみ

【授】回避，やむを得ない場合は授乳回避

【小】未確立

＊アトルバスタチンカルシウム水和物

Atorvastatin Calcium Hydrate

【商】リピートール Lipitor 山之内
内用：錠剤 1 錠中 5mg

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者，肝代謝能が低下していると考えられる以下のような患者（急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸），妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦，腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること

【効】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症

【用】○高コレステロール血症：1 日 1 回 10mg を投与する。重症の場合は 1 日 20mg まで増量できる。○家族性高コレステロール血症：1 日 1 回 10mg を投与する。重症の場合は 1 日 40mg まで増量できる。

【副】横紋筋融解症，ミオパチー，肝機能障害，黄疸，血管神経性浮腫，アナフィラキシー反応，蕁麻疹，血小板減少症，多形紅斑，Stevens-Johnson 症候群，Lyell 症候群，痒痒感，発疹，皮疹，脱毛症，血小板減少，AST・ALT・γ-GTP 上昇，ALP・LDH 上昇，肝障害，肝炎，アミラーゼ上昇，嘔吐，下痢，胃炎，軟便，嘔気，口内炎，胸やけ，便秘，胃不快感，腹痛，心窩部痛，腹部膨満感，膵炎，胆汁うっ滞性黄疸，食欲不振，消化不良，悪心，口渇，咳，CK 上昇，痙攣，筋炎，筋肉痛，無力症，異常感覚，末梢神経障害，手指しびれ，めまい，発赤，不眠，インポテンシ，四肢しびれ，テストステロン低下，コリンエステラーゼ・TSH・ACTH 上昇，アルドステロン低下，グルコース・HbA_{1c} 上昇，血清鉄低下，高血糖症，低血糖症，カリウム上昇，脳梗塞，肺炎，頭痛，全身倦怠，带状疱疹，浮腫

【妊・授】不可

【小】未確立

平成 13 年 2 月 16 日新規登録薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
セロクエル錠(フマル酸クエチアピン)	25mg, 100mg / 錠	抗精神病剤	藤沢
ルーラン錠(塩酸ペロスピロン水和物)	4mg, 8mg / 錠	抗精神病剤	住友
ミロル点眼液(塩酸レボブノロール)	[0.5%] 5mL / 本	緑内障・高眼圧症治療剤	科研

＊フマル酸クエチアピン Quetiapine Fumarate

【商】セロクエル Seroquel 藤沢

内用：錠剤（劇） 1 錠中 25mg, 100mg

【禁】昏睡状態の患者、バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者、エピネフリンを投与中の患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】精神分裂病

【用】1 回 25mg, 1 日 2 又は 3 回より投与を開始し、患者の状態に応じて徐々に増量する。1 日投与量は 150～600mg とし、2 又は 3 回に分割投与する。

【副】悪性症候群、遅発性ジスキネジア、不眠、不安、神経過敏、傾眠、頭痛、めまい、幻覚の顕在化、痙攣、健忘、攻撃的反応、昏迷、神経症、妄想の顕在化、リビドー亢進、感情不安定、激越、錯乱、思考異常、自殺企図、人格障害、躁病反応、多幸症、舞踏病様アテトーシス、片頭痛、悪夢、うつ病、独語、衝動行為、自動症、アカシジア、振戦、構音障害、筋強剛、流涎、ブラジキネジア、歩行異常、ジスキネジア、嚥下障害、ジストニア、眼球回転発作、顆粒球減少、頻脈、起立性低血圧、心悸亢進、低血圧、高血圧、徐脈、不整脈、失神、心電図異常、AST・ALT・LDH 上昇、Al-P・γ-GTP 上昇、ビリルビン血症、去痰困難、鼻炎、便秘、食欲不振、食欲亢進、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、イレウス、消化不良、瞳孔反射障害、高プロラクチン血症、T₄ 減少、月経異常、甲状腺疾患、高コレステロール血症、高脂血症、発疹、排尿障害、排尿困難、尿失禁、尿閉、BUN 上昇、倦怠感、無力症、CK 上昇、口内乾燥、多汗、発熱、体重増加・減少、胸痛、筋痛、高カリウム血症、舌麻痺、知覚減退、背部痛、肥満症、浮腫、ほてり、歯痛

【妊】未確立、有益のみ 【授】授乳中止

【小】未確立

＊塩酸ペロスピロン水和物

Perospirone Hydrochloride Hydrate

【商】ルーラン Lullan 住友

内用：錠剤（劇） 1 錠中 4mg, 8mg

【禁】昏睡状態の患者、バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者、本剤に対し過敏症の患者、エピネフリンを投与中の患者

【効】精神分裂病

【用】1 回 4mg, 1 日 3 回より始め、徐々に増量する。維持量として 1 日 12～48mg を 3 回に分割し食後投与する。1 日量は 48mg を超えないこと。

【副】悪性症候群、遅発性ジスキネジア、麻痺性イレウス、SIADH、心悸亢進、胸内苦悶感、血圧低下、頻脈、心室性期外収縮、徐脈、血圧上昇、パーキンソン症候群、アカシジア、ジスキネジア、AST・ALT・Al-P・γ-GTP 上昇、視力障害、眼のかすみ、角膜びらん、発疹、紅斑、便秘、食欲減退、悪心・嘔吐、食欲亢進、腹部不快感、下痢、腹痛、プロラクチン上昇、月経異常、排尿障害、頻尿、白血球増加・減少、赤血球増加・減少、ヘモグロビン増加・減少、ヘマトクリット値増加・減少、血小板減少、白血球分類異常、不眠、眠気、焦燥・不安、めまい・ふらつき、過度鎮静、興奮・易刺激性、頭重・頭痛、うつ状態、眼瞼下垂、頭鳴、頭部異常感、手のしびれ感、脱力倦怠感、口渇、CK 上昇、無力感、発汗、発熱、ほてり、射精障害、気分不快感、鼻閉、喀痰、体重増加、水中毒、多飲症、総コレステロール上昇・低下、総蛋白低下、血清ナトリウム・クロール低下、尿蛋白、尿糖、尿ウロビリノーゲン

【妊】未確立、有益のみ 【授】授乳中止

【未・新・乳・幼・小】未確立

＊塩酸レボブノロール

Levobunolol Hydrochloride

【商】ミロル Mirol 科研

外用：点眼剤 0.5% (5mL)

【禁】気管支喘息又はその既往歴のある患者，
気管支痙攣・重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者，
洞性徐脈・房室ブロック（第Ⅱ，Ⅲ度）・
コントロール不十分な心不全・心原性ショック
のある患者，本剤の成分に対し過敏症の既往歴
のある患者

【効】緑内障，高眼圧症

【用】1回1滴を1日1回点眼する。十分な眼圧
下降効果が持続しない場合は，1回1滴，1日2
回まで点眼可能である。

【副】眼類天疱瘡，気管支痙攣，呼吸困難，呼
吸不全，うっ血性心不全，心ブロック，脳虚血，
心停止，脳血管障害，失神，喘息発作，全身性
エリテマトーデス，結膜充血，しみる，角膜炎，
掻痒感，眼痛，眼瞼発赤，霧視，徐脈，右脚ブ
ロック，頭痛，めまい

【妊】未確立，有益のみ

【授】回避，授乳回避

【小】未確立

【貯】遮光